



My stories in St.Paul

2023年度入学 セレクティブコース R.S



進学先：明治学院大学経済学部経済学科 一般選抜型



STEP 1 目標のなかった「2位」の期間



高校1、2年生の頃の私は、これといった大きな目的もなく、ただ目の前の定期テストをこなす日々を送っていました。成績は決して悪くありませんでしたが、どこか「こなしているだけ」という感覚が拭えませんでした。強いて言えば、1年生の2学期から3年生の1学期まで、クラスの成績ランキングでずっと「2位」に甘んじていたことが唯一の火種でした。あと一歩が届かない悔しさはありましたが、心の底から「1位を獲得するために死に物狂いになる」ほどの情熱は、まだ自分の中に芽生えていませんでした。



STEP 2 違和感から見つけた、本当の目標



そんな私の高校生活を大きく変えたのは、大学受験という壁に真っ向から向き合った経験でした。当初は先生方の勧めもあり、カトリック学校であるパウロの特色を活かして、上智大学神学部の特別入試を目指していました。侍者を務めたり、立川教会のミサに通ったりと、形としては熱心に取り組んでいました。しかし、いざ志望理由書を書こうとすると、ペンは止まりました。自分の中で「神学を深く学ぶ」という未来にリアリティが持たず、借り物の言葉でしか語れない自分に強い違和感を抱いたので。「このままではいけない」と担任の先生と何度も面談を重ねる中で、私は一つの大きな決断をしました。それは、3年生の6月という遅い時期からの「一般受験への転向」です。楽な道ではなく、自らの学力で道を切り拓く。その覚悟が決まった瞬間、私の受験は「与えられたもの」から「自分自身の戦い」へと変わりました。



STEP 3 「合格」という執念が生んだ結果

一般受験を志してからは、それまでの「なんとなく」の勉強は影を潜めました。明確な標的ができたことで、一分一秒を惜しむほどモチベーションが跳ね上がり、「絶対にこの手で合格を掴み取ってみせる」という執念に近い気持ちが湧いてきました。その変化は、数字となって真っ先に現れました。3年生の2学期、ついに長年の壁だったクラスランキングで1位を獲得したのです。模試の偏差値も最高で世界史の偏差値は72をマークしました。目標に執着して努力し続ける楽しさを知った私は、その勢いのまま大学受験でも納得のいく結果を勝ち取ることができました。



STEP 4 3年間で振り返って



パウロでの3年間は、私に「目標を持つことの真の意味」を教えてくださいました。ただまじめに取り組むこと以上に、自分の意志で選んだ目標に向かって心血を注ぐ経験こそが、人を強くさせるのだと実感しています。この3年間で培った「目標に挑む力」は、これからの人生においても私の大きな武器になると確信しています。

